



佐渡島の安養寺集落。

島で一番小さな能舞台があります。

朱鷺を育む島としてはよく知られていますが、その他、伝統文化も豊かで、日本の能舞台の2/3があるとされています。

地域の宝として受け継がれてきた安養寺の能舞台は、15世帯の人々の手によって大切に守られ、夏の終わりに年に一度の薪能が催されます。

しかしながら、守り手の高齢化が深刻で、存続が危ぶまれています。

この佐渡島に横浜から移り住んだ家族がいます。横浜を離れて8年。佐渡島の限界集落で、見えてきたことや感じてきたことをお話いただきます。

また、今、まちとむら、どちらも様々な問題を抱えています。だからこそ手を結ぶ、その意味を考えます。

里山暮らし、島暮らしに興味ある方、佐渡島に関心がある方、農村都市交流や地域おこしに興味がある方、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

くヨコハマ育ちが島で8年、おいに語る！

NPO法人循環の島研究室
代表理事 十文字 修氏

佐渡の里山暮らし



2010年 2月 5日 (金)

19:00 ~ 21:00 (受付 18:45 ~)

横浜市青少年育成センター 第一研修室
(関内ホール地下1階)

最寄駅 JR 根岸線 [関内駅]より徒歩7分 / 横浜市営地下鉄 [関内駅]より徒歩5分 / みなとみらい線 [馬車道駅]より徒歩5分

参加費 ▶ 無 料

申込み・問い合わせ ▶ 参加ご希望の方は、氏名、所属団体 (あれば)、電話番号を下記まで、E-mailもしくはFAXにてご連絡ください。

NPO法人よこはま里山研究所NORA(担当:丹治)

FAX 045-722-9675 E-mail info@nora-yokohama.org

主催: NPO 法人循環の島研究室 / NPO 法人よこはま里山研究所 NORA

* 本講座は、山村再生プラン助成事業です。

十文字 修 (じゅうもんじ おさむ)

神奈川県横浜市生まれ。83年「まいおか水と緑の会」を仲間と共に設立し、舞岡公園づくりと管理運営に参画。里山と都市住民、市民と行政の関係づくりの現場に身を置き、その後、流域ネットワークやバイオマスエネルギー普及活動に取り組む。02年佐渡島に移住後、NPO 法人循環の島研究室を設立。島内の放牧草原の保全再生をめざす「大佐渡放牧トラスト」等、地域に根ざした活動を勢力的に展開している。

